

令和 8 年度 第 1 回守山市健康づくり推進協議会 議事録

1 会議詳細

会議名	令和 8 年度第 1 回守山市健康づくり推進協議会
開催日時	令和 8 年 8 月 18 日(火) 午後 2 時から午後 3 時まで
開催場所	市民交流センター 1 階サロン室
出席委員	岡村会長、福田副会長、朝見委員、小畑委員、湊上委員、高田委員、西村(金)委員、石部委員、今井委員、植村委員、今津委員
欠席委員	坪田委員、間下委員、遠藤委員、川田委員、吉村委員、西村(秀)委員、風間委員
会議次第	1 開会 2 報告事項 (1) 第 3 次健康もりやま 2 1 について 資料 1-1, 1-2 3 協議事項 (1) 令和 8 年度の主な取組等について 資料 2 (2) その他 4 閉会
傍聴者	なし

2 会議内容

(1) 開会

会議は公開とし、議事録は発言委員名を記入のうえ、要点筆記とする。

(2) 報告事項

ア 第 3 次健康もりやま 2 1 について

発言者	内容
事務局	資料 1-1、1-2 について説明
西村委員	「育ちの世代」について、以前、守山警察署の方から、子どもたちが犯罪に手を染める年齢が低年齢化していること、小学校でも違法ドラッグなどの薬物乱用防止についての講習会を中学校に入る前の段階で実施しているという話を聞いた。 飲酒や喫煙ももちろん大切だが、こうした違法ドラッグに関する取組についても、この「健康もりやま」の計画の中で考えを組み入れた方が良いのではないか。
岡村会長	国の大枠としての計画では、おそらく健康づくりとは別の枠で組み込まれているかと思う。市の方で何か取り組んでいることや連携して

	いることあれば教えてほしい。
事務局	学校の方では、違法ドラッグに関することや薬物乱用に関することについて、学校教育の中で取り組んでいると把握しているが、現時点では具体的な連携などは行っていない。
岡村会長	飲酒や喫煙に関する指導については、薬物乱用と強い関連性が出てきそうなので、同じタイミングで啓発するような取組を進めていただきたい。非常に重要な視点だと思う。

(3) 協議事項

ア 令和8年度の主な取組等について

(P13「健(検)診受診率向上に向けた取組」39歳以下健診の受診勧奨まで)

発言者	内容
事務局	資料2「生活習慣と生活機能の維持・向上に関する取組」(P13まで)について説明
湧上委員	2点質問。 まず、1ページ、郷土料理の普及啓発におけるアンケート調査の結果が、目標に対して非常に低い(約6%程度)ことについて、何か大きな要因や理由として考えられることがあれば教えていただきたい。 もう1点、12ページ、40代～50代の健診受診率が多世代に比べて低いということについて、40代～50代というと、通常は「働き盛り世代」なので多くの方は事業所に勤務されているかと思う。こうした働き世代の方々へのアプローチとして、受診勧奨などの取組が十分に行われているのか。事業所にお勤めでない方への受診勧奨はどのようなになっているのか。受診率が低い要因について、市としてどのように考えておられるかお聞きしたい。
事務局	1点目について、理由を詳細に分析できていないわけではないが、ライフスタイルの変化や、核家族化が進んでいること、家庭で手作りする機会が減っていることが、要因の一つではないかと考えている。 まずは家庭で親しんで作っていただけるように、市としてアレンジレシピの紹介を行っている。
岡村会長	後半の受診率の件は、国民健康保険(国保)の受診率の話と理解してよいか。勤務されている方は社会保険等に入っておられるかと思う。
事務局	ご指摘のとおり、国保加入者の中での受診率のデータである。
岡村会長	国保加入者には、自営業の方や第一次産業の方、あるいは退職された前期高齢者の方などが含まれるかと思うが、その中での区分別の分析(自営業、第一次産業、無職など)は行われているか。

事務局	そこまでの細分化した分析はできていない。
岡村会長	受診率が低い要因を探る上で、対象者の中での「職種や就業状況別の受診率」を深掘りしていくことは、非常に有効かと思う。今後に向けて、そこを詳しく調査・検討していただければ。
高田委員	6 ページの「睡眠」という分野は、これまで健康推進員としてあまり啓発できていなかった分野ではないかと感じている。 実際に地域の方々と話すと「質の良い睡眠が取れない」という悩みをよく耳にする。今後は、健康推進員の活動の中でも、この睡眠に関する講習会や生活習慣の改善に向けた取組に重点を置きながら、啓発活動を広げていければと考えている。
朝見委員	食生活（1 ページ）、郷土料理のアレンジレシピについてネットで確認したが、レシピを普及させていくことを考えたときに、レシピに載っている食材（例えば、えび豆や、ごりの佃煮など）が「手軽に手に入るもの」でないと、なかなか実際に作ってみようという行動にはつながらないのではないかと思う。 例えば地元のスーパーなどの流通業界と連携し、レシピに必要な食材が手軽に買えるような環境づくりを一緒に進めるなど、流通との連携も必要ではないかと感じた。そうした流通面での工夫も、今年度中にできるところから進めていただければ。
事務局	現状、流通業界との連携については具体的な取組ができていない。今後に向けて、どのような方法が行えるか検討を進めたい。
福田副会長	睡眠のところ（6 ページ）ですが、具体的に「何時間眠れているか」と言う時間的な分析や、世代別（何歳代がどのような睡眠状況か）、あるいは「寝つきにかかる時間」など、より詳細な分析はされているか。 若い世代と高齢者世代では、睡眠に関する課題も全く異なると思うので、そのあたりのデータ分析について教えてほしい。
事務局	睡眠時間や寝つきにかかる時間などについて、現在は高齢者世代や若年層などの詳細な分析までは十分にできていない。今後、実態を詳しく調査した上で、対策を立てていきたいと考えている。
石部委員	2 点質問。 1 点目は、食育の機会の提供の中で、商工会議所青年部のメンバーが経営する市内の飲食店等で、昨年度からアレンジレシピのメニューを提供するなどの取組を行っている。今年度もこの取組を継続するにあたり、例えば「対象メニューを提供している店舗を市のホームページ等で大々的に PR する」といった、事業所に対するインセンティブ（メ

	リット) になるような、継続・推進のための工夫は考えているか。 2 点目、健康づくりの啓発として、市役所の内部でも部門の垣根を越えて取り組めることがあるのではないかと思います提案する。 例えば、市の公共事業の入札や補助金申請の要件として、「従業員の健康診断の受診率が一定以上であること」を条件に加えるなど、健康経営に取り組む企業を優遇するような仕組みづくりはできないか。 また、先ほど国保の受診率が低いという課題があったが、個人事業主の方々が市の補助金などを申請する際に健診受診を要件に紐付けるといったことも考えられる。市全体として健康づくりを推進する仕組みとして、検討いただければ。
事務局	1 点目について、昨年度、大学と共同で開発した「野菜たっぷりレシピ」について、商工会議所の協力のもと、市内の飲食店で提供していただいた。今年度、店舗に対する具体的なインセンティブまでは予定していなかったが、より多くの市民の方に知っていただくための周知や PR 方法について検討していく。また、提供店舗の一覧については、現在も守山市のホームページで公開させていただいている。 2 点目の「健康経営との連携」といった、政策的なインセンティブの仕組みづくりについては、現状、健康づくり部局だけで進めるのは難しい部分がある。他部署とも連携しながら、健康づくりに取り組む企業や個人を評価する仕組みを、将来的なアイデアとして検討させていただきたいと思う。
岡村会長	国なども「健康経営」とセットでの推進を推奨しているので、ぜひ市役所全体として検討していただければ。
今井委員	歯科健診の受診者数の推移について、昨年度 40 歳代の受診者が減少しているとのこと。ハガキによる受診勧奨を 40 歳、50 歳等に送っているが、昨年度は発送数が少なかったといった原因があるのか
事務局	ハガキの発送対象者数については、毎年それほど大きな変動はない。ただ、昨年度はハガキの発送時期が例年よりも少し遅れ、6 月にずれ込んでしまった。今年度は例年通り 5 月に発送している。受診者数の推移がどのように変化するか、注視したい。

イ 令和 8 年度の主な取組等について

(P13<社会環境の質の向上に関する取組>から P21 まで)

発言者	内容
事務局	資料 2 「社会環境の質の向上に関する取組」(P13 から P21 まで) について説明

西村委員	14 ページ「運動環境づくり」より、守山市のスポーツ推進委員では、数年前から「多世代で楽しめるスポーツ」として、フィンランド発祥の「モルック」の普及に力を入れている。昨年は大きな大会も開催でき、自治会などからも指導に来てほしいという依頼が増えている。 また、さらに体を動かしたい方向けに、アメリカで流行している「ピククルボール」という、テニスとバドミントンと卓球を合わせたようなニュースポーツの普及にも今年度から取り組んでいる。 市民の方から「体を動かす機会が欲しい」という要望が増えていると感じるのは、市内の自治会や子ども会などからの、スポーツ指導の派遣依頼が体感的に増えていることから実感している。今後もスポーツを通じた健康づくりや仲間づくりに貢献していきたい。
岡村会長	普及しつつあるニュースポーツの紹介や、自治会等からの需要が高まっているという貴重な状況を共有いただいた。市としてもこうした需要を把握し、連携を深めていただければ。
湧上委員	ゲートキーパーの養成について、昨年度改選があり、民生委員の 1/3 が新任であるが、中には 3 期以上のベテランもあり、独自に国の養成講座で学んでいる者もいる。講座の実施にあたり、受講した人（民生委員など）が、実際に地域で活動する中で「本当に役立つ、実践的な内容」にしていきたいと考えている。 認知症サポーター養成講座の初級編・上級編のように、内容に変化をつけるなど検討いただきたい。
事務局	受講者が自信を持って現場で対応できるよう、実際の活動に即したより実践的な研修内容になるよう、相談させていただきながら内容構成を検討したい。
岡村会長	その他、事務局・委員それぞれから何かないか。 他に意見が無ければ、終了とする。

ウ その他

次回守山市健康づくり推進協議会は令和 9 年 2 月頃を予定している。

(4) 閉会